

質問1. 3-4 (1) 水質 (45頁)：「**水道水（浄水）は、水質基準項目を全て満たした安全、安心な水道水を供給しています。**」と記載しています。確かに、硝酸性窒素濃度は基準値上限の半分以下で「安全」です。しかし、全国の多くの自治体に比べ2~4倍高い値です。良質で市民に安心を与え信頼され得るレベルと考えていますか？

質問2. 課題23 施肥等による硝酸性窒素対策 (47頁)：「**今後も低減化を推進する必要があります。**」と記載しています。エコアイランド宮古島宣言2では、硝酸性窒素濃度の2050年目標2.17mg/Lとしています。なぜ目標達成まで30年もかかるのですか？ 硝酸性窒素を、他の自治体程度にまで低下させ、良質かつ信頼される水道水とする為の積極的かつ具体的取り組みを教えてください。

質問3. 課題38 供給の安定性の確保 (72頁)：「**水需要の増加に対し施設の能力が不足する見込みにあるとともに、渇水時を含む災害時においても取水量が不足することが予想されます。**」と記載しています。現在休止している伊良部系水源・浄水場の再稼働を早急にお願いしたい。利用しないと水は汚れが進むからです。大渇水等により既存の水源からの取水量が大幅に減少した場合、条例で規定されている非常時の水道水優先により地下ダム貯留地下水の迅速な利用は可能なのですか？緊急時水道水としてすぐ利用できるような水質は担保されているのですか？

【意見】

私たちの命を守るライフラインである上水道を、日々休むことなく管理・運営・供給されている上下水道部の皆様に、まず感謝申し上げます。新水道ビジョンでは、理想像として【**「安全」これからも安全で信頼される水道**】とあります。**安全のみならず安心を与える良質な水の供給こそが、信頼される水道です。**安心を与える良質な水道水の理想像は、本来存在しないはずの環境化学物質が検出されない事です。

30年前水道水水質基準上限に迫っていた硝酸性窒素濃度は、市民・行政による削減対策により現在4.3mg/Lと基準上限の半分以下であり、当然安全です。しかし、多くの自治体の水道水中硝酸性窒素濃度は約1~2mg/L未満です。宮古島市はその2~4倍以上です。エコアイランド宮古島宣言 Ver2.の2050年度目標値は2.17mg/Lです。しかし、他の自治体並みの値になるのは、あと30年もかかるということです。良質の水であるという市民の安心及び信頼をより一層得るためには、更なる積極的かつ実効性のある硝酸性窒素削減対策を策定・実行する姿勢を示す必要があります。

現在の水道水源保全地域外では、必ずしも十分な水質保全の仕組みがありません。地下ダム貯留地下水の水道水転用が必要な大渇水はいつでも起こる可能性があります。地下水保全条例では、緊急時の水道水優先を規定しています。地下ダム地下水は、農業用水としての水質管理だけでは不十分であり、水道水に転用できるよう関係機関と協働して水質管理に取り組む必要があります。水量はある意味、自然現象に左右され、人知の及ばないところがあります。一方、水質は、人為的な影響が主です。私たちの努力に左右されます。決して豊富でない地下水資源の持続可能な保全と利用の為には、水質を良質に維持する必要があります。